

別表 J-3 共同利用施設、観測機器、装置等一覧表（平成 30 年度）

本表の詳細については共同利用 HP (<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/kyodoriyou/>) をご参照ください。

- ・本施設、機器、装置を利用し、研究成果を論文等で発表される場合は、以下の文章を謝辞等に記載してください。また、必ずその別刷や報告書等を、本研究所研究支援チーム（共同利用担当）へ提出してください。
(英文)This study was supported by the Earthquake Research Institute cooperative research program.
(和文)本研究は、東京大学地震研究所共同研究プログラムの援助を受けました。

（観測施設）

共同利用コード及び名称	観測施設に関する情報	担当教員 (○責任者)	利用条件等	申請 期限
2018-F1-01 筑波地震観測所 油壺地殻変動観測所 鋸山地殻変動観測所 和歌山地震観測所 広島地震観測所 弥彦地殻変動観測所 堂平地震観測所 信越地震観測所 富士川地殻変動観測所 室戸地殻変動観測所 本所周辺観測施設・観測設備	鋸山： http://eoc.eri.u-tokyo.ac.jp/GOP/ngy.html 和歌山： http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/WSO/index.html 富士川： http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/fujigawa/indexJ.html 室戸： http://eoc.eri.u-tokyo.ac.jp/GOP/Mrt/indexM.html	○観測開発基 盤センター長	事前に担当教員と打ち合 わせること。	随時
2018-F1-02 八ヶ岳地球電磁気観測所		○小河勉	事前に担当教員と打ち合 わせること。	随時
2018-F1-03 浅間火山観測所 小諸地震火山観測所 伊豆大島火山観測所 霧島火山観測所		○観測開発基 盤センター長	事前に担当教員と打ち合 わせること。	随時

（野外观測機器等）

共同利用コード及び名称	機器に関する情報 (型番、台数、機器情報 URL 等)	担当教員 (○責任者)	利用条件等	申請 期限
2018-F2-01 衛星通信等を用いた全国地 震観測システムデータ受信 専用装置	http://eoc.eri.u-tokyo.ac.jp/eisei_system/riyou/data_jushin_riyou.htm	○酒井慎一	設置、設定、維持は利用 者で行うことが条件であ るが、事前に担当教員と 打ち合わせる必要。別途、 データ受信に関する利用 申請が必要。	随時
2018-F2-02 移動用地震観測機器 (衛星・地上テレメータ装 置、地震計、データロガー)	http://eoc.eri.u-tokyo.ac.jp/eisei_system/riyou/vsat_riyou.htm http://eoc.eri.u-tokyo.ac.jp/eisei_system/riyou/chijo_souti.htm	○酒井慎一、 岩崎貴哉	担当教員とよく連絡をと ること。特定共同研究で 使用中は利用できないこ とがある。	随時

共同利用コード及び名称	機器に関する情報 (型番、台数、機器情報 URL 等)	担当教員 (○責任者)	利用条件等	申請 期限
2018-F2-03※ GPS 観測資材 27 式	JAVAD 社製 GPS 受信機 SIGMA-G2T 型 JAVAD 社製 GPS アンテナ GrAnt-G3T 型	○未定（加藤 照之教授が定 年退職のため、H29 年度 内に後任を決 定）	事前に担当教員と打ち合 わせること。特定共同研 究で使用期間中は、利用 を遠慮してもらうことが ある。	随時
2018-F2-04 高精度広帯域 MT 観測装置	Metronix 社 1) 本体部 ADU07 観測装置 8 台 ADU07e 観測装置 11 台 ADU08e 観測装置 2 台 2) 誘導コイル MFS06 24 本 MFS07 4 本 MFS06e 16 本 MFS07e 30 本 Phoenix 社 1) 誘導コイル MTC50 3 本 磁場 3 成分、電場 2 成分を測 定可能。サンプル周波数は、 ADU07(e)は 524KHz より 2^n Hz. Phoenix 社の装置は コイルのみ。 あわせて、電位測定用電極(ハ ンガリーMLタイプ)、リチウ ムバッテリー、大容量鉛蓄電 池(G&Yu SMF27MS-730)な どの付属品も多数貸出可能。	○上嶋誠	事前に担当教員と打ち合 わせること。共同観測等 で使用中の期間を除く。	随時
2018-F2-05 長基線電位差測定装置	アドシステム社 8 チャンネル 20bit 地電位差測定装置 SES93 約 20 台と自社データ 転送ユニット SESNET93 約 20 台。 サンプル間隔は 0.1, 1, 10s.	○上嶋誠	事前に担当教員と打ち合 わせること。共同観測等 で使用中の期間を除く。	随時

共同利用コード及び名称	機器に関する情報 (型番、台数、機器情報 URL 等)	担当教員 (○責任者)	利用条件等	申請 期限
2018-F2-06※ 海底地殻熱流量測定装置一式	複数の温度センサーを取り付けたプローブを海底に突き刺すことにより、温度勾配を測定し、地殻熱流量を求めるための装置一式。 重錘、プローブ、温度センサー、データロガー、ピンガーからなる。 この他、別途採取した海底堆積物の熱伝導率を測定するための、「迅速熱伝導率計」(京都電子 QTM-500) も利用可能である。	○山野誠	同種の装置の使用経験者または共同研究に限る。	随時
2018-F2-07 可搬型広帯域地震観測システム(1)	広帯域地震計:CMG3T, STS2 収録計: REKTEK130 合計 40 セット	○川勝均	取得したデータは、観測終了後一定期間(2~3年)の後、地震研究所・海半球観測研究センター・データセンターから公開することとする。 事前に担当教員と打ち合わせる。	随時
2018-F2-08※ 可搬型広帯域地震観測システム(2)	ナネメトリクス社(カナダ) 広帯域地震計 Trillium120PA 保有台数 14 台	○及川純	事前に担当教員と打ち合わせる。	随時
2018-F2-09※ 絶対重力計	Microg-LaCoste(米国) FG5 型絶対重力計 公称精度 1-2microgal	○大久保修平	事前に担当教員と打ち合わせる。	随時
2018-F2-10※ ラコステ重力計および重力解析ソフトウェア	LaCoste&Romberg 社(米国) スプリング型相対重力計(陸上用) 公称精度 10microgal	○大久保修平	貸出しの際、必要に応じて講習を受ける。	随時

共同利用コード及び名称	機器に関する情報 (型番、台数、機器情報 URL 等)	担当教員 (○責任者)	利用条件等	申請 期限
2018-F2-11※ 可搬型強震観測システム	可搬型強震観測システム (SMAR-6A3P 改) アンプ搭載筐体×16 台 (センサーは全てアカシ製 JEP-6A3P ; 1V/G) アンプ無し筐体×5 台 (センサーは全てアカシ製 JEP-6A3P ; 10V/G) ロガー 白山工業製 LS-7000XT×10 台 ロガー 白山工業製 LS-7000×10 台 ※筐体とロガーを組み合わせ て 1 式として貸し出します。 ※貸出可能最大数 20 式 ※アンプゲインは 1, 20, 50, 100 倍と 0.1, 1, 10, 100 倍の 2 段組み合わせの掛け算となり ます。	○瀬瀬一起	事前に担当教員と打ち合 わせること。	随時
2018-F2-12 火山ガス観測システム		○及川純	事前に担当教員と打ち合 わせること。	随時
2018-F2-13 超長周期電磁場測定装置	ウクライナ製フラックスゲー ト磁力計 MT 観測装置 LEMI-417 6 台 磁場 3 成分、電場 4 成分を毎 秒で測定可能。	○上嶋誠、清 水久芳	事前に担当教員と打ち合 わせること。共同観測等 で使用中の期間を除く。	随時
2018-F2-14 高精度方位決定ジャイロ装 置	SOKIA 社製 GP1X 手動ジャ イロステーション一式 測定精度は 20 秒角。	○上嶋誠、清 水久芳	事前に担当教員と打ち合 わせること。	随時
2018-F2-15※ 深海用 3D 流向流速計測シ ステム	NORTEK 社製 Aquadopp-6000m 1 台 (http://www.nortek-as.com/e n/products/CurrentMeter/A quadopp6k) 上記のドップラー方式流向流 速計とチタン球トランスポン ダシステムを組み合わせ、流 速計へ外部電源供給すること で 10 秒間隔・1 年程度の観測 を可能とした、自己浮上型の 海底観測システム。流速計を 単体で使用することも可能。	○塩原肇	事前に担当教員と打ち合 わせること。	随時

共同利用コード及び名称	機器に関する情報 (型番、台数、機器情報 URL 等)	担当教員 (○責任者)	利用条件等	申請 期限
2018-F2-16 高精度広帯域電場観測装置	NT システムデザイン社製 Elog1k 型広帯域 2 成分電場測 定装置 1024Hz, 32Hz にて 24bit で 電場を測定。 低消費電力 (1.8W)	○上嶋誠	事前に担当教員と打ち合 わせること。	随時
2018-M-01 特定機器・レナーツ地震計 (1 Hz)	LE-3Dlite MkII 20 台	○観測開発基 盤センター	2 ヶ月未満の貸出のみ。2 ヶ月以上の長期貸出を希 望する場合には、前年度 6 月頃に行われる公募に 申請すること。	随時
2018-M-02 特定機器・広帯域地震計	Trillium-120PA 6 台	○観測開発基 盤センター	2 ヶ月未満の貸出のみ。2 ヶ月以上の長期貸出を希 望する場合には、前年度 6 月頃に行われる公募に 申請すること。	随時
2018-M-03 特定機器・低消費電力型デー タロガー	HKS-9700a-0505 20 台	○観測開発基 盤センター	2 ヶ月未満の貸出のみ。2 ヶ月以上の長期貸出を希 望する場合には、前年度 6 月頃に行われる公募に 申請すること。	随時
2018-M-04 特定機器・Centaur データロ ガー	6 台	○観測開発基 盤センター	2 ヶ月未満の貸出のみ。2 ヶ月以上の長期貸出を希 望する場合には、前年度 6 月頃に行われる公募に 申請すること。	随時
2018-M-05 特定機器・広帯域地震計	TS17840/Trillium-120PA 9 台	○観測開発基 盤センター	2 ヶ月未満の貸出のみ。2 ヶ月以上の長期貸出を希 望する場合には、前年度 6 月頃に行われる公募に 申請すること。	随時
2018-M-06 特定機器・地震火山観測用計 測ユニット	LF-1100R/LF-2100R 9 台	○観測開発基 盤センター	2 ヶ月未満の貸出のみ。2 ヶ月以上の長期貸出を希 望する場合には、前年度 6 月頃に行われる公募に 申請すること。	随時

(室内実験計測装置等)

共同利用コード及び名称	機器に関する情報 (型番、台数、機器情報 URL 等)	担当教員 (○責任者)	利用条件等	申請 期限
2018-F3-01※ 制御震源装置一式	http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/KOHO/KOHO/backnumber/15/15-1.html#unyou http://www.eprc.eri.u-tokyo.ac.jp/members/satow/operation/operationman.html	○佐藤比呂志、石山達也	機器の取り扱いに習熟していること。事前に担当教員と打ち合わせが必要。	随時
2018-F3-02 地震火山情報センター計算機システム	http://www.eic.eri.u-tokyo.ac.jp/computer/manual/eic2015/	○地震火山情報センター長	学術研究と認められないもの、本所設置目的から著しく外れているものは利用できない。詳細は本センター利用規定による。共同利用経費を必要としない場合は、直接本センターに利用申請する。	随時
2018-F3-03 岩石破壊実験装置一式 荷重及び変位信号 AD 変換・ 処理装置	http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/gijyutsubu/jikken/	○吉田真吾、 中谷正生	事前に担当教員と打ち合わせが必要。	随時
2018-F3-05 蛍光 X 線分析装置	RIGAKU 社製 波長分散型蛍光 X 線分析装置 ZSX Primus II http://www.rigaku.com/ja/products/xrf/primus2	○中田節也、 安田敦	事前の講習会を受講していること(年 2 回開催予定)。実験用消耗品については各自用意すること。	
2018-F3-06※ 地震計測定震動台	エミック社振動試験装置 F-1400BD/LAS15 水平あるいは垂直の 1 軸電磁式振動台。	○新谷昌人	使用説明と日程等の調整のため事前に担当教員に連絡すること。装置は自己運転を原則とする。	随時
2018-F3-07※ レーザー発振装置	ネオアーク社波長安定化レーザー 波長 633nm の赤色光の安定化レーザー光源。	○新谷昌人	事前に担当教員と打ち合わせが必要。	随時
2018-F3-08 全国地震データ等利用システム装置		○地震火山情報センター長	全国の地震波形データ等を整備し提供する装置。地震観測を実施している全国の大学に設置され共同で運用されている。担当教員との相談による。	随時

共同利用コード及び名称	機器に関する情報 (型番、台数、機器情報 URL 等)	担当教員 (○責任者)	利用条件等	申請 期限
2018-F3-09 カールフィッシャー水分計	京都電子工業株式会社製 カールフィッシャー水分計 (電量滴定方式) <MKC-610> http://www.kyoto-kem.com/en/product-category/karl/ 鉍石用水分気化装置 <ADP-512> http://www.kyoto-kem.com/ja/product/adp512/	○中田節也、 三部賢治	機器の取り扱いに習熟していること。事前に担当教員との打合せが必要。実験消耗品については各自用意すること。	随時
2018-F3-10 湿式レーザー粒度分析計 (室内実験計測装置)	Sympatec 社製レーザー回折式粒度分析装置 HELOS/KF-RODOS-QUIXEL システム http://www.sympatec.com/JP/LaserDiffraction/f-series/HELOS.html	○中田節也、 前野深	使用説明と日程等の調整のために事前に担当教員との打合せが必要。	随時
2018-F3-11※ 温度計校正器一式	フルーク社 1586A, 9142, 7103 他 恒温槽 (-30℃から 150℃) や温度計の出力信号をスキャンする一連の機器。	○中谷正生	使用説明と日程等の調整のため事前に担当教員に連絡すること。装置は自己運転を原則とする。	随時

※地震研共同利用 HP にて、写真やカタログ等、より詳細な情報を掲載しています。

別表 J-4 データ及び資料一覧表（平成 30 年度）

地震研究所の「公開データベース」<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/publication/>もご参照ください。

- ・本データ及び資料等を利用し、研究成果を論文等で発表される場合は、以下の文章を謝辞等に記載してください。また、必ずその別刷や報告書等を、本研究所研究支援チーム（共同利用担当）へ提出してください。

(英文)This study was supported by the Earthquake Research Institute cooperative research program.

(和文)本研究は、東京大学地震研究所共同研究プログラムの援助を受けました。

共同利用コード及び名称	担当教員(○責任者)	利用条件、データ及び資料に関する URL 等	申請期限
2018-D-01 WWSSN 地震記象マイクロフィルム/フィッシュ	○古地震・古津波記録委員会（佐竹健治）	要予約。用紙等については予約時に問い合わせを欲しい。 http://wwweic.eri.u-tokyo.ac.jp/wwssn/filmli.html	随時
2018-D-02 歴史地震記象	○古地震・古津波記録委員会（佐竹健治）	原則としてマイクロフィルムを利用。原記録は職員立ち合いのもとで利用すること。 http://wwweic.eri.u-tokyo.ac.jp/susu/	随時
2018-D-03 旧測候所報告・古新聞切抜き・国際地震観測報告等	○古地震・古津波記録委員会（佐竹健治）	資料室でコピー可。 旧測候所報告： http://wwweic.eri.u-tokyo.ac.jp/record-J/index.html 国際地震観測報告： http://wwweic.eri.u-tokyo.ac.jp/record-W/index.html	随時
2018-D-04 観測開発基盤センター地震データ	○観測開発基盤センター長	大学間の取り決めに基づいて利用すること。詳しくは担当教員に問い合わせること。 http://eoc.eri.u-tokyo.ac.jp/harvest/	随時
2018-D-05 衛星通信等を用いた全国地震観測システムデータ受信利用	○観測開発基盤センター長	「衛星通信地震観測システムデータ受信利用規定」に基づいて申請すること。（様式 S-1） http://eoc.eri.u-tokyo.ac.jp/eisei_system/riyou/data_jushin_riyou.htm	随時
2018-D-06 国立大学微小地震観測網カタログ(JUNEC)	○地震火山情報センター長	震源データは anonymous FTP で利用可。 ftp://ftp.eri.u-tokyo.ac.jp/pub/data/junec/ 検測データは大学間の取り決めに基づいて CD にて提供可。（ただし、担当教員に利用申請を提出のこと）。	随時
2018-D-07 浅間、伊豆大島、霧島、富士の火山データ	○火山噴火予知研究センター長	事前に担当教員と打ち合わせること。	随時

2018-D-08 広帯域地震波形データ(1)	○海半球観測研究センター長	特になし。 http://ohpdmc.eri.u-tokyo.ac.jp/dataset/permanent/seismological/index.html	随時
2018-D-09 広帯域地震波形データ(2)	○鷹野澄	筑波、白木等の広帯域地震計のための ERIOS システムで収録された広帯域地震波形データ。観測点ごとに収録期間が異なるので、利用希望の際は、事前に担当者に相談すること。データフォーマットは ERIOS フォーマット。	随時
2018-D-10 新 J-array 地震波形データ	○地震火山情報センター長	ホームページから利用可。 http://jarray.eri.u-tokyo.ac.jp/	随時
2018-D-11 1993 年日光周辺域合同地震観測データ	○観測開発基盤センター長	1993 年合同観測参加者。	随時
2018-D-12 強震記録（主として駿河湾、伊豆半島観測網、足柄観測網のデータ）	○瀬瀬一起	http://smsd.eri.u-tokyo.ac.jp/smad/	随時
2018-D-13 歴史地震の古文書及びその解説文	○佐竹健治	特になし。 「東京大学地震研究所図書室特別資料データベース (http://www.eric.eri.u-tokyo.ac.jp/dl/meta_public/G0000002erilib)」のうち、コレクション名 02 (-1, 2, 3)の地震史料のオリジナル（複写）と解説文。	随時
2018-D-14 地球電磁気データベース	○上嶋誠	事前に担当教員と打ち合わせること。	随時
2018-D-15 八ヶ岳地球電磁気観測所速報データ	○小河勉	事前に担当教員と打ち合わせること。	随時
2018-D-16 地殻熱流量データセット	○山野誠	特になし。 日本列島を含む北西太平洋地域の地殻熱流量データをまとめたものである。対象範囲は北緯0～60度、東経120～160度で、フィリピン海、日本海、オホーツク海の全域をカバーしている。データファイルに含まれる項目は、測点名、緯度・経度、標高または水深、温度測定点数と最大深度、温度勾配、熱伝導率とその測定数、熱流量、及び文献とその出版年である。原則として、公表されている測定値をそのまま収録しているが、熱流量の値が0以下のものは除いてある。潜水船・ROV を用いて測定した値、及びガス・ハイドレートによる音響反射面の深度から推定した値は含めていない。	随時
2018-D-17 日本全国空中写真	○図書室	活断層調査や地震・火山・テクトニクスなどの研究のためであること。図書職員に申し出て利用すること。 http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/airphoto/shiryouushitu.htm	随時

2018-D-18 津波波形画像データ	○古地震・古津波記録委員会（佐竹健治）	地震研の公開データベースの津波波形画像検索システム http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/tsunamidb/ より申請して利用すること。利用資格は地震研究所共同利用に準ずる。	随時
2018-D-19 首都直下地震防災・減災特別プロジェクトデータ	○酒井慎一	事前に担当教員と打ち合わせること。 http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/shuto/index.html	随時
2018-D-20 超伝導重力計観測データ	○今西祐一	事前に担当教員と打ち合わせること。	随時
2018-D-21 都市の脆弱性が引き起こす激甚災害の軽減化プロジェクトデータ	○酒井慎一	事前に担当教員と打ち合わせること。 http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/project/toshi/	随時